

公衆衛生看護管理論演習	4年・後期	1単位	准教授 島田 昇
科目カテゴリ	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33330974

1. 授業のねらい・概要

地域に顕在する、あるいは潜在する健康問題を把握、地域診断の実際を通して、地域住民のニーズの把握方法を学ぶ。また、地域看護行政における運営管理能力や、保健福祉計画の策定、予算化、実施・評価のプロセスを学び、その流れにおける保健師の役割を理解する。健康危機時の管理能力、ケアシステムづくりも併せて学ぶ。

2. 学修の到達目標

1. 地域診断の実際を通して、地域の特性や地域住民のニーズの把握方法を学ぶ。
2. 保健福祉事業計画の策定と予算化のしくみ、および実施・評価について理解する。
3. 公衆衛生看護活動における管理的機能と保健師の役割を理解する。

3. 授業の進め方

授業は地域を選定し、公衆衛生看護管理論で学んだ概念と実際に地区踏査、地区診断展開プロセスを実際に行い対象地域の健康問題を把握し、公衆衛生看護活動を理解する。

4. 授業計画（演習）

グループをつくり、地域や、保健活動場面を選定し地区診断プロセスにしたがって情報収集・アセスメント・計画・実施・評価の過程を演習する。さらに保健医療福祉に関する制度に即して、保健福祉計画の策定、予算化、実施・評価のプロセスを演習する。

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）70%、演習内容の完成度30%

6. テキスト・参考文献

テキスト：公衆衛生看護学や産業保健、学校保健の授業で使用したテキスト

参考文献：1)国民衛生の動向 最新版

2)群馬県の健康・保健・福祉に関する統計資料等。市町村の公式ホームページ

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

シラバスの授業計画の範囲内について、テキスト内容の熟読し、予習（60分）程度を行うこと。

受講後は講義内容をノートにまとめる復習（60分）を実施すること。

8. 受講上の留意事項

自分の住む地域や周辺の環境、旅先など周囲に関心をもつこと。また、国家の施策策定、財政、予算などの広い知識が役立つ。

日頃から新聞を読みニュースに触れて、政治・経済について関心を高めること。また、図書館を積極的に利用し文献や専門雑誌に目を通す習慣をつけること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験実施の際に解答などを説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

保健師教育課程必修科目であり、修得できない場合は保健師国家試験受験資格が不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

行政委託機関および、医療機関での保健師としての勤務経験を活かして、講義・演習の指導を行う。